

三陸沿岸の磯焼け域における中層フロートを用いた コンブ類の増殖手法

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2023-02-22 キーワード (Ja): マコンブ; ウニ; 藻場造成; 三陸海岸 キーワード (En): 作成者: 八谷, 光介, 松本, 有記雄 メールアドレス: 所属: 国際農林水産業研究センター
URL	https://doi.org/10.57348/0000000167

三陸沿岸の磯焼け域における中層フロートを用いたコンブ類の増殖手法

八谷光介・松本有記雄

ウニ類などの植食動物が多く磯焼け状態となっている地点で、植食動物のアクセスを低減させるために簡易な装置を中層に浮かべ、海藻類を生育させる実験を行った。2017年7月に海底（水深6.7～8.4m）から高さ1～2mにフロートを浮かべたところ、フロートやロープにマコンブやワカメなどが着生し、海藻類の湿重量は1基当たり最大で16.0kg（2018年）、5.2kg（2019年）となった。一方海底には兩年ともケウルシグサのみが生育した。海藻類を生育させることはできたが、その周囲のキタムラサキウニの身入り改善には至らなかったため、今後はフロートの浮力や海底からの高さを調整し、海藻類の生産量やベントスへの餌料供給量をさらに増加させることが望まれる。